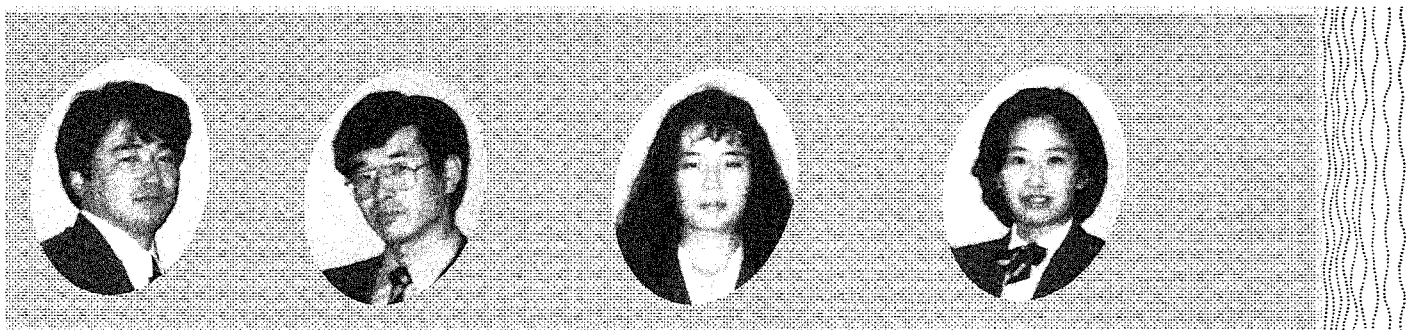


訪中青年の翼へ参加して



菊地将仁さん

白井政道さん

齋藤千春さん

堀内みどりさん

中国青年との意見交換をはじめ、現地の文化、経済、産業などの視察を行って、国際的視野を広げ日中友好親善の促進を図るとともに、規律ある団体生活を通じて明日の都留市を担う青年を育成するため、4人の青年が中華人民共和国に派遣され、今回、その成果について報告していただきました。

堀内

も、何か自然と一体化しているような印象を強く受けました。

私は、中国が男女平等ということを実践しているお国柄のためなのか、特に女性の力が強く、至る所で女性が働いているのには、驚きとともに同じ女性という立場であるせいか、うれしい気持ちになりました。

また、中国は人口が多すぎるから発展はしないという話を耳にして

も、実際に中国へ行ってみて感じたことは、中国人は本当に勤勉であり、何かをやってもやるという気迫がひしひしとこちらへ伝わってきたのを覚えています。



菊地

このように豊富な人材がいるのは、中国にとってラッキーなことではないでしょうか。

ぼくの思い出は、やはり中国の青年と生に交流ができたことです。中国の青年は、率直で、話していて、物事に対して正面からぶつかっていくようなバイタリティを強く感じました。

また、今回青年の翼に参加した団員の間の交流がで

きたことも良い思い出の一つです。

中国の人々と交流するにあたって、団員が一つに団結して行動ができたことは、この若者の力が、これからの山梨の発展と地域の暮らしの向上に、必ず大きな力を発揮していくと確信しました。

齋藤

私は、自分の仕事の関係上、幼稚園への訪問が一番印象深く思い出に残っています。

通訳さんを通じて、私より先輩の先生と子供達の教育方法について話し合い、色々な刺激を受けたことが、帰国後、職場で大いに役立っています。

白井

齋藤さんが言ったことにも関連するんですけども、中国では子供達の教育にとっても熱心なんですよね。

たとえば、中国には子供達の才能を伸ばすために、少年宮というものが設けられていて、子供達は学校が終わった後そこへ行き、図画工作、楽器の演奏、コンピュータの操作など、色々な項目の中から自分の好きなものを選択し、遊